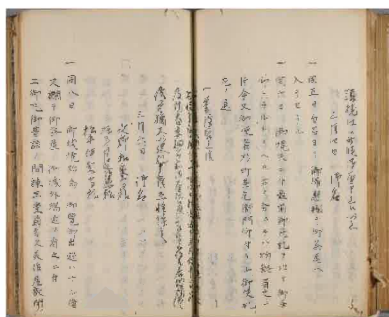


【参考】主な展示資料



よしげこうふ
吉茂公譜 江戸時代

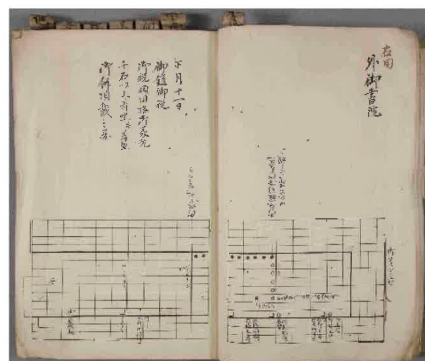
公益財団法人鍋島報効会蔵・佐賀県立図書館寄託

4代藩主鍋島吉茂の年譜。佐賀城の享保の火災（1726）について二ノ丸をはじめ本丸、天守まで焼失したことを吉茂が報告を受けたこと、火災後は重臣達から諫早家や多久家の屋敷に逗留を促されたことが記されている。

おんまえ ず
御間絵図 弘化3年(1846)～明治2年(1869)

公益財団法人鍋島報効会蔵・佐賀県立図書館寄託

本丸御殿の外御書院等で儀式の様子を記したもの。藩主や重臣などの出席者の位置、屏風や建具の位置などが詳細に記されている。



まつずふすま
松図襖 江戸時代前期

公益財団法人鍋島報効会蔵

長らく鍋島家に保管されていた襖絵。
かのうたんゆう かのうなおのが
狩野探幽の弟狩野尚信（1607～1650）の名が記されている。金箔を背景に描かれた太い松の幹や枝の描写は印象的である。



でんさがじょうすぎど
伝佐賀城の杉戸

江戸時代 本館蔵

佐賀城で使われていたと伝わる杉戸。紅葉等を背に面をつけて舞（能）を舞う人物等が描かれている。

質素な印象を持つ杉戸にも鮮やかな彩色や装飾が施されており、往時の御殿の様子を伝える。

な し じ ほうおううんかくま き えちゅうおうじょく
梨子地鳳凰雲鶴時絵中央卓 江戸時代

公益財団法人 鍋島報効会蔵

第10代藩主鍋島直正が造営した神野御茶屋に伝
来したもの。この卓は、床の間飾りの中央に置き、
香炉を飾る四脚の棚物である。総梨子地の文様で、
四辺には鳳凰、雲鶴、桐が描かれている。



や え ひと え おうこうき
八重一重(櫻岡記) 万治元年(1658)

佐賀大学附属図書館蔵

江戸の林家、京都の皇族、公家衆に依頼して桜岡
の漢詩集と和歌を募り、一冊にまとめたもの。冒頭
の「櫻岡記」は儒学者木下順庵きのしたじゅんあんによるもので小城
藩主の鍋島直能が順庵に桜岡の概要を述べて執筆を
依頼した。

